

研究分野	資源生態	部名	漁場環境部
研究課題名	アカイカ南下経路調査		
予算区分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H.13 ~ H.17		
担当	油野 晃・清藤 真樹		
協力・分担関係	遠洋区水研		

〈目的〉

本県沖合漁業のアカイカは、基幹漁業のイカ釣り漁業の中でも重要な魚種となっており、北上期の分布回遊についてはこれまでも比較的充実して調査が行われているが、南下期については十分な調査がなされていなかった。そこで、アカイカ南下経路の解明と分布状況の伝達により本県イカ釣り漁業経営安定に資することを目的に調査を実施する。

〈試験研究方法〉

- ・ 南下分布生態調査：試験船及び標本船の操業状況から魚群動向及び生態を明らかにする。
- ・ 海洋構造把握調査：アカイカの分布、回遊は水温環境に大きく左右されるため、海況情報の収集を行うことにより、環境と分布状態の関係を明らかにする。
- ・ 情報伝達手法開発試験：衛星回線を利用した伝達手段による、点の情報だけでなく面の情報提供を実施する。

〈結果の概要・要約〉

2003年9月～翌年1月に東経150度以西の海域において、試験船開運丸（208トン）及び東奥丸（140トン）でアカイカの漁場調査を実施した。調査は開運丸5航海、東奥丸3航海の計8航海にわたって行い、147調査点での海洋観測と、85調査点での釣獲試験を行った。アカイカの総漁獲尾数は57,656尾、CPUEは0～25尾台であった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

○開運丸

- ・ 第1次南下経路調査 9月24日～10月7日 14日間

36調査点での海洋観測と、16調査点での釣獲試験を行った。16操業点中13点でアカイカが採集され、総採集尾数は29,737尾、CPUEは0～25尾台であった。外套長組成は19～42cmの範囲でモードは29cmであった。

- ・ 第2次南下経路調査 10月15日～22日 7日間

8調査点での海洋観測と、7調査点での釣獲試験を行った。7操業点中7点でアカイカが採集され、総採集尾数は6,164尾、CPUEは1～17尾台であった。外套長組成は19～40cmの範囲でモードは32cmであった。

- ・ 第3次南下経路調査 11月5日～16日 12日間

30調査点での海洋観測と、14調査点での釣獲試験を行った。14操業点中14点でアカイカが採集され、総採集尾数は6,693尾、CPUEは0～12尾台であった。外套長組成は20～47cmの範囲でモードは32cmであった。

・第4次南下経路調査 12月8日～18日 11日間

20調査点での海洋観測と、16調査点での釣獲試験を行った。16操業点中16点でアカイカが採集され、総採集尾数は4,416尾、CPUEは0～8尾台であった。外套長組成は23～48cmの範囲でモードは34cmであった。

・第5次南下経路調査 1月15日～29日 15日間

25調査点での海洋観測と、12調査点での釣獲試験を行った。12操業点中11点でアカイカが採集され、総採集尾数は7,793尾、CPUEは0～8尾台であった。外套長組成は26～46cmの範囲でモードは35cmであった。

○東奥丸

・第1次漁場調査 9月8日～18日 11日間

10調査点での海洋観測と、6調査点での釣獲試験を行った。6操業点中5点でアカイカが採集され、総採集尾数は85尾、CPUEは0～1尾台であった。外套長組成は18～33cmの範囲でモードは27cmであった。

・第2次漁場調査 10月9日～21日 13日間

8調査点での海洋観測と、8調査点での釣獲試験を行った。8操業点中8点でアカイカが採集され、総採集尾数は1,025尾、CPUEは0～4尾台であった。外套長組成は18～41cmの範囲でモードは30cmであった。

・第3次漁場調査 11月11日～21日 11日間

10調査点での海洋観測と、6調査点での釣獲試験を行った。6操業点中6点でアカイカが採集され、総採集尾数は1,743尾、CPUEは0～14尾台であった。外套長組成は22～51cmの範囲でモードは33cmであった。

〈今後の問題点〉

アカイカ漁業の中で、南下期の三陸・道東沖のアカイカは重要な資源である。しかし、回遊その他生態について過去に僅かな知見を残しているが、魚群動向の予測を行うための資料としてはまだ不十分な状況であり、継続したデータの収集が必要とされている。

また、最近ではインターネット等を利用したリアルタイムの海況情報（水温図、海面高度図等の衛星画像）を容易に入手できるようになったことから、それらの情報を利用した漁場形成予測手法についても検討が必要である。

〈次年度の具体的計画〉

- ・標本船データのデータベース化。
- ・過去のデータと海況情報（水温図、海面高度図等の衛星画像）を利用した漁場形成予測手法の確立。

〈結果の発表・活用状況等〉

発表誌：平成15年度イカ釣漁場開発調査資料 第29号 及び 外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する生物測定・標識放流・海洋観測結果基礎資料集 青森県水産総合研究センター